



●編集 公益財団法人まちみらい千代田
〒101-0054 千代田区神田錦町3-21
ちよだプラットフォームスクウェア4階
TEL3233-7555 (代) FAX3233-7557
<https://www.mm-chiyoda.or.jp>

f まちみらい千代田公式フェイスブック
<https://www.facebook.com/MMChiyoda>

🐦 まちみらい千代田公式ツイッター
<https://twitter.com/MMChiyoda>

お知らせ

広報紙「まちみらいニュース」創刊200号 ～これまでのあゆみとこれから～

まちみらい千代田の広報紙「まちみらいニュース」は、区民、区内企業、賛助会員等多くの皆様のご協力により、本号で200号を迎えることができました。

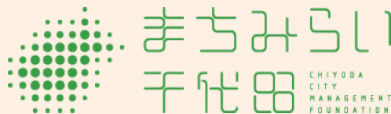
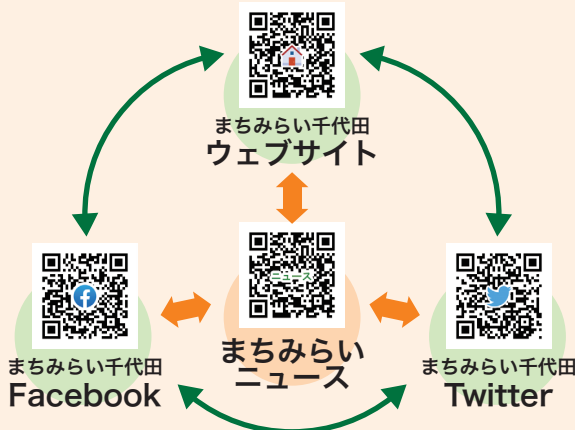
この「まちみらいニュース」は、平成17年4月に区内の3団体(※)が事業統合して誕生した「財団法人まちみらい千代田(平成26年1月に公益財団法人へ移行)」の実施事業や関連団体の情報等を伝える広報紙として、16年に渡って発行してきました。

これまで、東日本大震災、消費税率の引き上げ、新型コロナウイルス感染症の感染拡大など、社会に大きな影響を及ぼす出来事がある中、まちみらい千代田では、臆せず工夫を重ねながら活力ある地域社会の構築・発展に寄与できるよう取り組んできました。

同様にスマートフォンやソーシャルメディアの普及によって、広報のあり方も大きく変化しました。その変化の中でも各広報媒体の特性を生かし、今後も皆様のお役に立つ情報を届けられるように努めます。

引き続き「まちみらいニュース」は、ソーシャルメディアと連動して効果的な情報発信を行うとともに、常に時代に即した広報紙づくりの実現を目指します。

(※)「財団法人千代田街づくり推進公社(昭和63年10月設立)」
「財団法人千代田区コミュニティ振興公社(平成4年3月設立)」
「財団法人ちよだ中小企業センター(平成5年3月設立)」



お知らせ

マンション連絡会を開催します

12月18日(土)、マンション連絡会を開催します。参加を希望する方は、事前にお申し込みが必要です。

※会員の方以外は参加できません。参加を希望する方は、あらかじめ連絡会への入会が必要です。



■会員募集

マンション管理組合の理事長を対象に、マンション連絡会の会員を募集しています。入会希望の方は、まちみらい千代田ウェブサイトをご覧ください。



■問合せ 住宅まちづくりグループ
☎3233-3223
✉kyojyu@mm-chiyoda.or.jp

お知らせ

『第13回千代田ビジネス大賞』エントリー企業紹介(第2回)

まちみらい千代田では、中小企業の成長発展の支援を目的として、経営革新や経営基盤の強化に取り組んでいる企業を「千代田ビジネス大賞」で表彰しています。先月号に引き続き、エントリー企業を紹介します。(原稿提出順)

1 株式会社ライトストーン

代表取締役社長 のうじょう ひろし 能城 博

業種 ソフトウェアサービス

弊社は創業時より25年以上一貫して、科学技術分野向けのソフトウェアを販売しています。主なお客様は、大学・高専、政府系研究機関、企業の研究所や工場の研究者・技術者です。IT技術で日本の科学技術を支える一助になりたいと思います。

2 株式会社ユニモト

代表取締役社長 さとり しんいちろう 左部 俊一郎

業種 映像・Web制作

映像制作会社として設立36年目となる当社は、平成23(2011)年以降、第二創業と位置づけ「VR動画」の制作・開発に注力。10年超の経験を生かし、感染症対策下における「非対面型集客ソリューション」を提供します。

3 軒先株式会社

代表取締役 にしうら あきこ 西浦 明子

業種 ITサービス業

軒先は、スペースシェアのパイオニア企業です。「スキマを照らす。」をミッションに、すべての人が居場所をもてる世の中を目指しています。

4 株式会社アジアスター

代表取締役 か しきょう 賈 志强

業種 インターネット付随サービス

Web会議に革命を！弊社のWeb会議は、発言内容をリアルタイムでAI翻訳し、字幕表示します。コロナ禍で海外とのコミュニケーションが必要な企業をサポートします。

5 株式会社KALOS BEAUTY TECHNOLOGY

代表取締役社長 たか た ひでかず 高田 栄和

業種 美容・生活・健康家電の製造販売

業界初のハンズフリー台付きドライヤー！超速乾＆サロン仕上がりりの「KAZE nice Dryer Premium」や、No.1の高温ナノジェットスチームで除菌や消臭もできる衣類スチーマー「Stylish Steamer」など、不便を便利にする新しい製品を開発しています。

6 株式会社ファインプロス

代表取締役 はらさわ まさたか 原澤 政孝

業種 広告デザイン制作

企業広告デザイン専門のファインプロスです。企業が抱える「採用」「ブランディング」「サービス周知」などの課題をデザインの力で解決し、状況に応じて“紙”“WEB”“動画”いずれかで最良の提案をします。

7 ゆうらホールディングス株式会社

代表取締役CEO ささき あゆみ 佐々木 歩美

業種 卸売業

『お客様と一緒にお客様の生活にアートの心地よさを提供する』ため、日本の匠技を有する伝統的ものづくり職人と「匠ワンストップ®」によって、お客様のトレンドに応えられる商品を開発しています。

8 JCAホールディングス株式会社

代表取締役CEO ふくいす たかし 福家 貴

業種 サービス業

弊社は、中小企業の海外展開支援を行い、インフラ設備のアメリカでの導入や日用品の中国での販路開拓などで実績を上げています。取引先企業の課題解決を図り、持続的な成長につながるよう業務に取り組んでいます。

9 株式会社D&I

代表取締役 こばやし てつろう 小林 鉄郎

業種 人材コンサルティング

D&Iは「誰もが挑戦できる社会」を目指し、障害者の戦力化に向け、既成概念にとらわれることなく、新しい働き方を提案し続けます。そして価値のある障害者雇用を繰り返し、日本の社会課題解決に寄与します。

10 株式会社パル・コーポレーション

代表取締役 たむら よしお 田村 嘉男

業種 化学製品の製造販売

電気や火を使わず、水の添加だけで、感染力の強いノロウイルスを約1分で完全死滅させる防疫用蒸気発生剤を開発。高温蒸気で嘔吐物を殺菌し、現場作業員への飛沫感染や空中浮遊の二次感染を防ぎます。

11 JAGATオンライン試験システム(株)

代表取締役 まきの つねお 牧野 常夫

業種 検定試験運営、システム開発

弊社では、試験の実施請負・企画・開発・オンライン化を請け負っています。弊社の特許出願中のオンライン試験システムでは、独自の監督システムにより、自宅や会社で公平な試験の実施を行うことができます。



イベント



ちよだいちはのイベント情報

☆12月月間ご当地まつり☆

三重県鈴鹿市

11月29日(月)～12月24日(金)

鈴鹿市は、三重県の中北部に位置する人口約20万人の中核都市です。市のキャッチコピーは「さあ、きっともっと鈴鹿。海あり、山あり、匠の技あり」です。

市の東部は伊勢湾に面しており、西部には鈴鹿山脈が広がっています。また、奈良時代から交通の要所として栄え、近年は「本田技研工業鈴鹿製作所」や「鈴鹿サーキット」がある場所として知られており、全国で唯一「モータースポーツ都市宣言」をしています。

食の分野では、清水清三郎商店の銘酒「作」の酒かすを食べて育ったブランド豚「作豚」が有名です。ほんのり甘い脂が好評で、養豚場と蔵元の対話から生まれたというユニークな豚です。そのほか、江戸時代から続く「大徳屋長久」の和菓子、白子漁港から水揚げされる海産物やその加工品など、おいしいものがたくさんあります。

12月の月間ご当地まつりでは、鈴鹿市の食の魅力を現地直送でお届けします。



ちりめんじゃこ



作豚



鈴鹿サーキット

■問合せ ちよだいちは

(千代田区神田錦町3-21 ちよだプラットフォームスクウェア1階)

☎&FAX 5577-3846 ※午前中の電話対応はできません。



お知らせ



千代田まちづくりサポート通信No.37を発行しました

7月に開催した第21回千代田まちづくりサポート公開審査会の様子をまとめた冊子を発行しました。コロナ禍において活動の見通しを立てるのが難しい状況の中、幅広い年代の方から応募がありました。

■主な掲載内容

- ・第21回千代田まちづくりサポート公開審査会の概要
- ・応募グループの概要・審査会委員のコメント
- ・会長総評・まちサポトピックス
- ・応募グループの活動マップ

■配布場所

- ・ちよだプラットフォームスクウェア4階
- ・千代田区役所総合窓口課(区政情報コーナー)
- ・各出張所

■問合せ 協働まちづくり・総務グループ ☎3233-7556



今回発行したNo.37
および過去のバックナン
バーは、まちみらい千代田
ウェブサイト
で公開してい
ます。



紹介



千代田ビジネス大賞歴代受賞企業

第8回大賞受賞

企業名:株式会社すららネット 代表取締役:湯野川 孝彦

教育に対する確たる理念をもって発展を続ける

～区内の優秀な中小企業を発掘し、表彰する「千代田ビジネス大賞」が平成20年度にスタートしてから13年経過しました。今年度は歴代の大賞受賞企業の現在を紹介しています。～

大賞受賞のポイント

楽しく学べる対話型学習支援システム『すらら』を、海外を含めた学校、塾、個人に幅広く提供しています。『すらら』はコンテンツの充実、海外校向け言語対応、AIを始めとする先端デジタル技術の取り込み等、常に進化を続け、国の教育施策との整合も図り、導入実績を拡大しています。

大賞受賞後の変化

一番大きな変化は、平成29(2017)年のマザーズへの上場です。会社設立時からいつかはIPOをという思いがありましたが、大賞の受賞が推進力になったことは事実です。従業員が正社員67名、非正規社員も含めて90名と大賞受賞時の倍以上に増加しました。また、大賞受賞時に入居していた事務所が手狭になったことから、現在の事務所に移転しました。

『すらら』の導入実績は、現時点で、学校が1,342校、学習塾が放課後等デイサービスを含めて1,196校(事業所)、学習者が合計で約43万人と、大賞受賞時から年々増大を続けています。

海外展開に力を入れており、JICAの補助金を活用し、10か国以上で導入実績を上げています。

しかし決して変わらないのが『教育に変革を、子供たちに生きる力を』という経営理念です。

今後の経営方針

コロナ禍で停滞せざるを得ない状況ですが、日本国内の少子化傾向に対応するためにも、海外展開に今後も積極的に取り組んでいく方針です。

『すらら』の進化、例えばバイタルデータとの連動などの挑戦を続けていく計画です。

マザーズへの上場は通過点に過ぎません。すららネットは初心を忘れず、これからも常に前進を続けていく決意です。



連載

がんばる中小企業 応援リレーコラム



第2回

中小企業のテレワークの実現ポイント パート2

中小企業診断士 なかほら ひろゆき 中原 裕之

全文は
こちら!



1. テレワークの現状

東京都のテレワーク普及率は、令和2年4月で49%となりましたが、その後も45～48%と横ばい状態が続いております。マスコミ報道では、緊急事態宣言の有無に関係なく、通勤状況は以前に戻ったような感覚に見えますが、数値はその報道どおりになっておらず、意外にもテレワークは定着しているのが現状です。

2. テレワークの生産性

テレワーク、在宅勤務において、最大の関心事は、「通勤と比較して、生産性はどうなるだろうか?」ということかと思います。実態を見ると、テレワークの生産性は、総合的に見れば低下していますが、調査した企業の3分の1は、テレワークで100%以上の生産性を実現しています。

3. テレワークができない理由はある

調査結果によると、企業の組織風土やマネジメント次第で生産性を高めることができますとしています。テレワーク時の生産性を高める特徴として、業務プロセスや上司のマインドの柔軟性が高く、結果を重視する志向を持っています。逆に生産性を低下させているのは、集団・対面志向が強く、権威主義的な風土の企業です。

4. コロナ禍が終わったらテレワークはどうなる?

コロナ禍が終わったら、かつてのような通勤ラッシュの嵐になるのでしょうか? 調査結果によると、テレワークを継続したい人は多いようです。また、意外なことにテレワークをしていない企業でも、コロナ禍が終わったら、テレワークをしたい人が一定数いることもわかりました。

5. テレワークは「一つの武器を得た」と考えよう

外部視点で企業がどのように見られているか? その観点を見ると、在宅勤務、テレワークができるという一つの手段、武器を持っても損はないと感じます。テレワークを「一つの武器を得た」と考えるなら、テレワークの特質、通勤によって直接会うことの特質、両方をうまく利用できた企業が、生産性を向上させることができますと感じます。

※本コラムは、株式会社パーソル総合研究所が行った「新型コロナウイルス対策によるテレワークへの影響に関する緊急調査」の結果をもとに記載しています。

